提出締め切り: 帰国後 1 ヶ月以内　　提出先: shien@asafas.kyoto-u.ac.jp

京都大学大学院　アジア・アフリカ地域研究研究科
2012 年度　JASSO ショートビジット派遣報告書

報告者氏名　飛山　翔子　　2012　年度（入学・編入）

1.研究課題：

ナミビアの乾燥地における自然環境と人々の生活との関わり

2. 渡航先：ナミビア共和国

現地滞在期間：平成　24　年　9　月　1　日　～　24　年　11　月　28　日　（　89　日間）

3.今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

今回、私はナミブ砂漠の中を流れる季節河川、クイセブ川の下流域にある村で、2 ヶ月間住み込み調査をし、周辺環境や人々の生活について理解を深めた。(初めの 20 日間は、首都で資料収集をしたり、広域調査を行ったりした。)

目的として挙げていた霧の調査については、気温・湿度・地温・霧の濃度について、オリジナルのデータを得ることができた。また、ゴバベップリサーチ＆トレーニングセンターという砂漠の研究所から観測データを手に入れることができたので、両者を比較しながら分析を進めていく予定である。また、当該地域では 2010/11 年シーズンにクイセブ川の大洪水を経験しており、環境や人々の生活に被害をもたらした。現地では景観調査と、村の人々への聞き取り調査により、被害の状況を明らかにすることができた。また、この地域特有の生業である「ナラの採集」についても、多くの知識を得ることができた。

4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や長期的な展望について述べてください

今回は村での滞在期間を優先したため、首都や第 2 都市での時間に余裕がなく、センサスなど役所の公式データや空中写真へのアクセスができなかった。これから博士予備論文執筆のために、より多くの文献やデータを集める必要があるので、2013 年度中にナミビアへ再渡航を計画中である。

私は予備論執筆後、企業就職を希望している。就職活動では今回得られた経験を存分にアピールしたいと考えている。また、総合商社や開発コンサルタントといった、海外の案件と多く関わるであろう業界を希望しているので、実務研修を通して、グローバル人材を目指していきたいと思っている。

課題としては、今回現地語の習得ができなかった(挨拶程度のレベルに留まった)ので、次回渡航の際にはより力を入れて積極的に学んでいきたい。

5. 本プログラムに参加した感想や、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいか、希望をお聞かせください

私は今まで留学したことがなく、今回の渡航は私の人生にとって最大のチャレンジであった。しかし滞在村や周りの人に恵まれて、充実した良い時間を過ごすことができた。この経験は自信へとつながり、また私の将来にとってもターニングポイントとなった。

希望するプログラムはより長期の留学プログラムである。渡航当初はどの国でも調査許可が下りるのに時間がかかることが予想され、また特に途上国ではデータを手に入れるのにも時間がかかるためである。

＊1 ページを超えないようにしてください。

＊プリントアウトして、署名を記入の上、提出してください。

署名